

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 福寿荘
(ユニット名)	第1ユニット
所在地 (県・市町村名)	新潟県魚沼市与五郎新田13-7
記入者名 (管理者)	磯部 清
記入日	平成21年6月5日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の個々の希望や習慣を取り入れて生活出来るように取り組んでいる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が理念を共有して、出来る限り実践するように取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で活動報告して、理解を広めている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出時、気軽に挨拶を交わしている。玄関先に花壇を作り、花を植えて、行きかう人に気軽に声をかけてもらえる雰囲気作りをしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏祭りの参加の誘いや地域の行事の見学、踊りのボランティアに来てもらい、交流を深めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>他事業所と交流会を持ち、情報交換している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>自己評価の意義を理解して、評価の結果は改善するようにとらけている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>運営推進会議では近況報告を行い、参加していただいた方々から意見を伺っている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>地区ケア会議で現状報告したり、入所判定会議に市の職員に出席してもらい一緒に協議したり、困難事例の際には相談している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>機会があれば、参加する意向です。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>管理者、職員ともに虐待が見過ごされないように、注意は怠っていない。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時によく説明し、わからない事は細かく説明して納得いくまで話し、理解してもらっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食堂の掲示板に苦情受付窓口の連絡先を明記している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日々の様子に関しては毎月、家族へのお便りで報告している。健康状態は受診後、特別な事は電話連絡したり、金銭に関しては来所時にこづかい帳の確認をしてもらっている。	○	多額の買い物に関しては、ご家族に了解を得て、購入してもらっている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を伺ったり、面会に来られた時に、お話をしてお意見を伺うようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	とくに機会を設けてはいないが、随時、職員側からの話は管理者に伝えている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事を計画した際には、予め職員数を増やしたり、緊急時も柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がある場合は、予め入居者に話をして影響があまり無いように配慮している。離職する職員が居るうちに、新規職員に来てもらい、馴染んでもらえるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた研修を受ける機会を確保したり、また、研修の資料を全職員に回覧して、カンファの時にも伝えるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村のグループホームと定期的に連絡会を持ち、参加している。	○ 本年度は市内6箇所のグループホームとの交流会が行われる予定になっており、入居者と職員が参加する予定です。また、他グループホームに入居者と訪問に行ったり来たりしている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室の設置、忘年会、懇親会など行っている。	○ 休憩が取れない事が多いが、お互いに声を掛けて、少しづつでも取れるようにしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の機会を設け、各自がレベルアップ出来るようにしている。	○ 研修の機会を与えてもらい、参加させている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回、面談時に話を聞き、その後は日々の関わりの中でお話を伺うようにしている。	○ 居室担当を設け、話をよく聞くように心がけている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どのようなことで困っているのか、何を望んでいるのか聞かせていただくようにしている。	○ 面会時にお話を聞くようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けながら、支援が難しい事は包括支援センターの職員に協力を得て対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、見学に来ていただくようにして、ご本人に理解してもらってから入居を心がけている。また、生い立ちや生活歴など予め得た情報により入居の方が不安や混乱が無いようにそして周りの方も自然に馴染めるように職員間で検討している。	○	出来る限り、本人にも事前に来てもらい、納得して入居してもらうようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活するという視点で接している。入居者と職員の双方が時間を共有しながら、少しずつ、お互いを理解し、よい関係を築くように努力している。	○	入居者と職員が一緒になって洗濯物を干したり、食事の配膳を手伝ってもらったりしているなかで、双方の信頼関係を結ぶように努力している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員だけで対応するだけでなく、家族とも相談して、ご本人が安心して生活できるように協力してもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との外出や外泊で一緒に過ごしていただいたり、ホームの行事への家族の参加を呼びかけたりして、より良い関係が築いていけるように支援している。	○	ご家族と一緒に過ごす時間を持てるように支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室、商店街への外出援助している。また、日頃の会話等からヒントを得てこちらから○○に行ってみませんか？と声掛けすることもある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	難しい人間関係もあるが、孤立することの無いように食事の席に配慮したり、一日中居室に籠もることの無いように声かけをして共通の話題で楽しんでもらえるように心がけている。	○	入居者が孤立しないように、職員が声掛けをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した病院に様子を見に行ったりして、入居者や家族との関係を大切にしている。	○	退去された方の家族が、「懐かしい」と来てくれることがある。いつでも、気持ちよく来れるように対応をしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動などから本人の希望、意向の把握し、暮らしやすい方向に持っていくようにしている。対応に悩む時は他職員とも相談して本人の意図する方向へもっていけるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞いたり、本人に会話や知人が来所された時などに話を聞いて把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの暮らし方については、把握に努めてその方にあったケアを出来るだけ提供している。心身の状態、変化は生活記録、バイタルチェック表、申し送り等で把握している。	○	日々、状態が違うので、状態把握が適切に出来るように心がけている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「その人らしく」を大切に、状態にあったケアが出来るように本人、家族から話を聞き、モニタリングやカンファレンスで意見交換している。	○	月1回のカンファレンスの時だけでなく、状態が変わった時は、職員が話し合い、早めに対応している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた時は、家族に連絡し、職員とも相談して見直しするようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録の様式を情報が記入しやすいように変えて実行している。また、職員からも意見をだしてもらい、改善している。</p>	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて通院の送迎や付き添いをしている。</p>	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>本人の意向に応じて支援している。</p>	
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人や家族の意向や事業所で必要ありとの判断が出たときには、特養に申請、入所の支援をおこなっている。</p>	
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議や入所判定会議には包括支援センターの職員も出席してもらい、協働している。</p>	
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人が希望する馴染みのかかりつけ医が往診にきている。家族が通院介助をする時は、日頃の様子を書いた受診表を渡している。また、心配なことは関係者にこちらから問い合わせるようにしている。</p>	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>地域に認知症の専門医がおり、必要に応じて受診したり、相談にのってもらっている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>疑問に感じたことは、かかりつけの病院の看護師に聞いたり、主治医に相談している。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>入院時は、担当の看護師に連絡を取り、状態把握をしている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>必要に応じて、本人、家族、主治医と相談している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>主治医と相談しながら、職員全員で取り組んでいる。</p>	○	<p>具体的な対応の方法など、勉強会の機会を持ち、いつでも対応できるようにレベルアップしていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>本人の状態、今までの支援内容、注意点等の情報を提供している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドを傷つけないような、言葉かけを心かけている。個人情報への取り扱いにも十分注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人が希望を言えるように働きかけ、自己決定の支援をしている。意思の疎通の難しい方は様子、行動をみて個別に支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞いて、出来る限り個別に対応している。また、即日に出来ない時も、ご本人に説明して了解を得て、後日対応させてもらっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容院等、希望にあわせて来所してもらったり、出かけたりしている。衣類などは馴染みの店に行けるように支援している。	○ 理容、美容院はご本人の希望に沿った所で行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時は好みを考えながらたてているし、食べたいものを聞くようにしている。準備や後片付けは個人の力に応じてしてもらっている。	○ 盛り付け、配膳を手伝いたい入居者には率先して行ってもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は一緒に買い物に行ったり、希望のものを注文して配達してもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p> <p>排泄チェック表を利用してパターンを把握したり、夜間は声をかけてトイレでの排泄を促すなど、個人個人にあわせて支援している。</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p> <p>午前、午後の好きな時間に入浴できる。毎日、入浴したい方にはそのように対応している。</p>	○	希望されるかたには、入浴剤を使用して気持ちよく入ってもらっている。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p> <p>様子を見て声をかけ、必要に応じて休憩してもらっている。</p>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p> <p>「一緒に生活する」を大切に出来ることはお願いしたり、時には利用者の方に教えていただきながら仕事をする時もある。感謝の気持ちは言葉だけでなく表情や態度でも表すようにしている。</p>	○	本人の希望を取り入れて生活できるように支援している。
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> <p>個人の能力に応じて支援している。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p> <p>気分転換になるように日常的に散歩や馴染みの店に出かけている。職員の勤務状態で希望に添えないときは、きちんと説明して後日、対応させてもらっている。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p> <p>本人が行きたい、と望む所に他入居者と共に出掛けたり、職員が連れて行けない時は、家族に相談して出掛けられるように支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を使用してもらっている。本人がかかけられない時は、職員が手伝っている。手紙も自由にやり取りしておられる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来ていただけるように声をかけている。来所時は、ホールでお茶を飲んでもらったり、居室でゆっくり過ごしていただいたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正しく理解して鍵をかけないケアを実践している。黙って外出される方もいるので、玄関にセンサーをつけて対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員が廊下とホールを見渡せる所で記録を書いている。日中、その場を離れる時は声を掛け合っている。	○	ホームの花壇の花の水遣りに一人で行かれる方には、職員がさりげなく見守るようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態を見ながら、職員同士で話し合っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日頃から十分念頭に置き仕事をしており、ヒヤリハット、事故報告書で個々に対処を考え、全職員で話し合い対応している。また、マニュアルを整備し、訓練も行い講習を受けた場合はその得た知識を報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> <p>職員全員が救急救命講習に参加している。</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> <p>日中、夜間と想定して入居者と共に避難訓練を行い、その都度、改善点を話し合っている。また、消火器の使い方の訓練もしている。運営推進会議で地域の方の協力をお願いしている。</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p> <p>リスクに関しては家族に説明し、理解していただいた上で対応している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>状態の変化には注意しており、記録と申し送りで情報の共有をして、適切な対応をとるようにしている。</p>	○	共有した情報を元に、体調の変化のあった方へは、いつも以上に意識して状態観察をおこなっている。
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>薬カードを個別にファイルして、薬について疑問があればすぐ確認できるようにしている。薬を用意する職員、内服させる職員ともに間違いのないようにチェックしている。薬が変更になったり、新しく処方された時は状態の変化に留意している。</p>	○	内服の確認が難しい方もいるが、さりげない見守りで内服の確認をおこなっている。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>水分摂取や適度な運動をすることに取り組んでいる。また、声掛けすることにより、意識して行う方には、声掛けをしている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>食後の歯磨きの励行。声かけだけでなく、必要な方には介助している。口腔内に変化があった場合にはその都度状態に合った口腔清掃をしている。</p>	○	週1回の義歯洗浄日に声掛けで行っている。一人で出来ない方には、職員と一緒にいき、清潔保持に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況をチェック表に記入し把握している。一人ひとりの食事の好みに合わせた形態でたべてもらっている。食事量が低下している方については、口頭で申し送り、状態の観察を行っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、大切な事は掲示してある。地域で発生した場合は、予防、早期発見、対処方法を職員で第度確認し迅速な対応ができるようにしている。	○ 入居者、職員は勿論のこと、来訪者の方にも手洗いと励行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理の取り決め通り努め、食材は翌日の分を毎日配達してもらっている。	○ 調理用具や台所の衛生管理をして、定期的に清掃、消毒を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気になるように季節の花をいけたり、入居者が作った作品を飾っている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	国道沿いのため、車の音などが騒がしいが、1日中カーテンが閉め切っている事の無いようにして、季節の移り変わりが感じられるように随所に花を飾っている。	○ 食堂では同じ場所ばかりでなく、色々な人と話ができるように席変えしたりして対応している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには入居者が生けた花を飾ったり、いつでもお茶が飲めるように道具を用意してある。玄関先には椅子があり、外の空気を吸いながらお喋りできるような場所作りをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> <p>居室には長年使い慣れた道具を持ち込んでもらっている。畳を持ち込んで和室として使用されている方もいる。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p> <p>居室や食堂、和室に強制換気扇を使用している。また、居室内のエアコン、ヒーターは職員がこまめにチェックして調整している。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> <p>段差のあるところや廊下、トイレ、浴室等手すりをつけ、安全を心がけている。ベランダの物干しは丈の低いものも用意して使いやすいようにした。本人の身体レベルにあった歩行器を使用している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p> <p>不安なことには本人に聞きながら対処している。トイレには、大きな目印をつけてあり、各居室にも目印の花をつけてある。</p>	○	トイレも人目で使用中とわかるように工夫している。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p> <p>出来るだけ外に出る機会を増やし、皆で日向ぼっこをしながらお茶を飲んだり、庭いじりが好きな方には、小さいが花壇を作り、楽しんでもらっている。</p>	○	玄関先に椅子を置いてあり、いつでも外気浴が楽しめるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	① ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	② 数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③ たまに
		<input type="radio"/>	④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	① 大いに増えている
		<input type="radio"/>	② 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③ あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	② 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③ 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	② 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③ 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	② 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③ 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人ひとりの希望や要望を取り入れて、生活していけるように努力し、職員や家族だけでなく、周りの社会資源を活用し、支援していきたいと思えます。